



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

印旛沼流域かわまちづくり計画

沼の魅力を情報発信

船着場建設やイベント企画
佐倉市など5市町作成

9月定例県議会一般質問



印旛沼の浄化などを質問する伊藤昌弘県議

佐倉市選出の伊藤昌弘県議(3期)は9月定例県議会で登壇し、一般質問を行いました。風光明媚な印旛沼の復活を願う伊藤県議ですが、今回の一般質問でも真っ先に印旛沼の問題を取り上げ、県の取り組みを質しました。また、コメの新品種開発の進捗状況を尋ね、「千葉の新品種米」の全国へのアピールを要望しました。伊藤県議の質疑と森田知事らの答弁を特集します。

伊藤議員 印旛沼は全国湖沼水質ワーストワンであることから、あまり良いイメージは持たれていない。また、休憩できるポイントが少なく、水辺へのアクセスマも悪いなど、印旛沼を生きかされてはいない。

伊藤議員 「沼の魅力」を平成27年3月に策定したところ。ハード対策としては、船着き場や親水護岸を有する「水辺拠点」と、堤防を拡

幅し進入路を備える「一里塚を整備すること」としており、県が基盤工事を実施し、市町が利用施設を設置することとしています。また、ソフト対策としては、マラソン大会など、既存のイベントに加え、市町等と沼周辺を活用した新たなイベントを企画していくことで、沼の魅力の情報発信していくこととしております。県としても、沼を活用する様々な取り組みを支援してまいります。

伊藤議員 カミツキガメの今年度の捕獲事業の取組状況はどうか。知事 県では、印旛沼及びその流入河川を中心に、カミツキガメの捕獲を行ってきましたが、平成25年度に沼と周辺の水田を結ぶ低地排水路において生息が確認されたところです。このため、今年度は低地排水路においても本格的な捕獲に取り組み、8月末までに過去最多の748頭を捕獲しました。

伊藤議員 当初の推定頭数の3倍以上の個体を捕獲して、まだ多くのカミツキガメが生息しているということは、産卵し繁殖しているということになる。駆除を効果的に進めていくため、今後、県はどのように進めていくのか。知事 県では、平成19年度に、生息調査に基づきカミツキガメの防除実施計画を策定し、その捕獲に取り組んでおり、印旛沼水系では、これまでに約4500頭が捕獲されております。しかしながら、年々、捕獲数が増加していることから、生息数も増加傾向にあるものと推測されます。このため、今年度は、改めてカミツキガメの生息数を推計し、これを基にした将来の個体数増減の予測調査も行っております。

伊藤議員 今年度実施している実態調査をもとに、カミツキガメの一層の駆除の推進を要望する。

印旛沼のカミツキガメ 生息数増加、駆除を強化

伊藤議員 今年度実施している実態調査をもとに、今後、有識者を交えてより効果的かつ効率的な捕獲について検討し、カミツキガメの駆除を強化してまいります。

伊藤まさひろ・PROFILE

- 略 歴 ■
- 昭和30年 佐倉市に生まれる
- 昭和53年 日本大学法学部卒業
- 平成7年 佐倉市議会議員当選
- 平成11年 佐倉市議会議員再選
- 平成19年 千葉県議会議員当選
- 平成23年 千葉県議会議員再選
- 平成27年 千葉県議会議員3選
- 現 職 ■
- 千葉県議会 総務防災常任委員会委員長
- 日大習志野高校同窓会 会長
- 佐倉リトルシニア野球協会 会長

●県政や佐倉市のまちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談下さい!!

伊藤まさひろ 県議事務所
 〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
 TEL.043-485-8019
 FAX.043-486-1616

千葉の米の新品種 5年後に農家栽培目標

伊藤議員 近年、おいしいブランド米が続々と誕生している。青森県の「晴天の霹靂」が販売され、新潟県も新たに開発した米の新品種を「新之助」と命名し、平成29年から販売を始める予定との報道がなされた。

千葉県も農林水産県として、後れを取るわけにはいかない。そこでかがが、現在、県で育成している米の新品種はいつごろ開発される見込みなのか。

農林水産部長 新品種が農家で栽培可能となるには、県内各地における地域適応性試験などを最低3年間行い、栽培技術を確立した上で、種子を供給するための体制を整備する必要があります。

また、米品質評価の専門機関である日本穀物検定協会の調査により、食味や品質など既存品種に対する優位性を明らかにした上で、最も効果的な販売戦略を検討していくこととしています。

また、米品質評価の専門機関である日本穀物検定協会の食味評価を得たいと考えております。

また、この結果を踏まえ、来年度以降は、さらに必要な地域適応性試験や種子供給体制の整備を進めるとともに、そうした状況を見ながら、販売戦略に基づきまして、最も適切かつ効果的な時期に発表していきたいと考えています。

こうした取組を着実に進め、5年後には農家で栽培を開始し販売出来るよう、全力で取り組んでまいります。

農林水産部長 現在実施中の地域適応性試験の結果をもとに、今年度中に候補品種2候補を



再質問する伊藤昌弘県議

浄化槽 年1回の法定定期検査 低迷する受検率

伊藤議員 印旛沼流域市の高度処理型合併処理浄化槽の今年度の助成による整備状況はどうか。

環境生活部長 県では、生活排水対策の推進を図るため、国及び市町村と協

して、浄化槽設置に係る助成事業を実施しています。このうち、印旛沼流域市町においては、今年度300基を超える高度処理型合併処理浄化槽が助成により整備される見込みとなつて

います。伊藤議員 浄化槽の法定検査受検率向上にどのような取り組みをしているのか。

環境生活部長 本県における平成25年度の法定検査受検率は、使用開始直後の検査が、61・8パーセント、その後の年1回の定期検査にあつては、7・7パーセン

トとなつており、依然として低い水準にあると認識しております。

このため、県では、法定検査の申込みを浄化槽設置に係る補助金交付の要件とするなど、受検率向上に努めてまいりました。

また、未受検者に対しては、文書督促に加え、今年度は、電話や訪問による督促を行うモデル事業を新たに

実施し、個別に受検を促しております。

要望 伊藤議員 浄化槽の法定検査の受検率向上の取り組みについて、今年度からは、浄化槽設置者が維持管理と法定検査を一括して契約することを補助金の要件としたことで、改善が図られるものと期待している。

また、既に設置されている浄化槽の法定検査については、今まで、受検していないので、そういう方々を説得するのは、非常に大変だと思われる。

今、電話、文書等で、受検のお願いをしているとのことだが、もう、一工夫をしなればならないと思われる。法定検査を受検してもらえよう、更なる取り組みをお願いしたい。

伊藤議員 浄化槽の法定検査について、今年度からは、浄化槽設置者が維持管理と法定検査を一括して契約することを補助金の要件としたことで、改善が図られるものと期待している。

要望 伊藤議員 5年後を目途に農家で栽培を開始できるようにすることであるが、スケジューリングが遅れることのないよう要望する。

要望 伊藤議員 「つや姫」のケースを手本として、

さらには今月下旬には、販売に直結する実需者サイドのニーズをよく知る、集荷団体に対象を広げて試食会を実施する予定です。

今後、新たな技術の開発・普及や産地と連携したPR活動など、生産・販売の両面から支援することにより、「ちばエコ農業」の拡大に取り組んでまいります。

一步進んだ戦略で 全国にアピールを

伊藤議員 米の新品種の販売戦略の策定に、どのように取り組んでいくのか。

農林水産部長 県では、環境への負荷を軽減し持続可能な農業を目指して「ちばエコ農業」を推進しております。本年9月末現在の状況は、栽培農家数4894戸、栽培面積4178ヘクタール

ところでございます。今後とも、地元の関係者のご理解を得ながら、残る用地の取得を進め、事業の推進に努めてまいります。

要望 伊藤議員 県道佐倉印西線田町バイパスの進捗状況と今後の見通しはどうか。

伊藤議員 県道佐倉印西線田町バイパスにつき

ましては、線形不良や交通混雑の緩和を図るため、佐倉市田町地先の国道296号から岩名運動公園に至る1・5キロメートルで、現道拡幅やバイパス整備を進めております。

このうち、現道拡幅区間となる0・5キロメートルについては、用地が確保できましたことから、歩道整備等を実施しております。

佐倉印西線田町バイパス 鉄道との交差を協議

伊藤議員 県道佐倉印西線田町バイパスにつき

また、バイパス区間である1キロメートルにつきましては、昨年度から引き続き、鉄道との交差協議を複数回にわたり実施して

現在、整備に向けた課題について調整を行っておるところでございます。

要望 伊藤議員 県道佐倉印西線田町バイパスの一日も早い完成を要望する。

要望 伊藤議員 県道佐倉印西線田町バイパスの一日も早い完成を要望する。